

主 題：クリスチャン ②

聖書箇所：Iコリント人への手紙1章4-5節

Iコリント1章を開いてください。先週から私たちが学び始めたように、パウロはコリントの教会の人々がますます主に喜ばれる者に変えられて行くことを願っていました。クリスチャンとして彼らが成長し、彼らが喜びにあふれたクリスチャンとして成長していくように願っていました。そして教会がますます主の栄光を現わすものに変えられていくように願ってパウロはこの手紙を記したのだということを前回見てきました。特に私たちはこの1章の中で、パウロがそのことを願いながら、この教会に送ったメッセージは彼らを責めることではありませんでした。なんとあなたたちは怠慢なのか、なんとあなたたちの信仰は……ではなくて、もちろんそのことにも触れますが、最初にパウロがしたことは、そのクリスチャンたちの目をもう一度主に向けさせることでした。神様がどんなにすばらしい祝福を与えてくださったのか、どんな祝福を与え続けてくださっているのか、そのことにそれぞれの目を向けさせようとしてます。私たちは、この1章の中の10個の神様の祝福を見えています。こんな祝福を神様はクリスチャンであるあなたに与えてくださったのだと。

1. 神に属する者 2節

一つ目に、パウロは、あなたは神に属する者だと2節で教えてくれました。神によって選り分けられた者たち、たくさんの人々の中で神はあなたを選び分けてくださった。そして神はあなたを神ご自身の所有にしてくださいました。あなたは神のものであると。だからあなたもクリスチャンの集まる教会の責任もこの主のみこころに従い続けていくことです。聖書に服従すること、それが神に属する者と変えられた私たちの責任です。私たちが何を望むかではなく、神の望んでおられることを私たちは忠実に実行し続けて行く、それが神に属する者に与えられた責任で、クリスチャンであるあなたは神に属する者であると。

2. 神によってきよめられた者 2節

二つ目に彼が言ったことは、あなたは神によってきよめられたということです。あなたは聖徒であり、あなたは聖なる者とされた者、すなわちあなたはきよくされたのだということです。神のために聖別された、また神によってあなたは罪がきよめられたのだと。ですから私たちはひとりひとり信仰者として、神の前をきよく正しく歩んで行く責任があるわけです。しかしこの地上にあって私たちは罪との葛藤が続くわけですが、きよく正しく歩み続けるということは罪を犯したらそれを神の前に告白して歩み続けて行くということです。

3. 神からの恵みと平安をいただいた者 3節

三つ目は、神様から恵みと平安をいただいた者であると3節にそのことが出てきました。恵みと平安をいただいた者として、その恵みと平安において成長していきなさいと。では、どうしたら成長できるか——。今見て来ているように、しっかり私たちが主を見続けることです。主を覚え続けることです。主の言われることを覚えて、それに従い続けて行くことです。そしてあなたが恵みと平安において成長し続けておられるのなら、必ずそこには特徴があります。その特徴というのは、すべてのことに喜び、すべてのことに感謝していることです。そして主に従順に従い続けて行こうとしている。それがあなたが正しい歩みをしている証拠なのです。神の前に正しい歩みをしているならば、そのような祝福を神様はあなたのうちに与えてくださる。既にイエス様をお信じになっているあなたは、神様から恵みと平安を既にいただいたのです。それにおいて成長できるのです。だからいつも喜びを持って感謝を持って、主に従順に従い続けて行くというのは、あなたの歩みが正しいからです。恵みと平安において成長しているからです。このような祝福を神様は既にあなたに与えてくださっています。

4. 神によって救われた者 4節

きょうは4節のところから四つ目を見ていきます。四つ目は、神によってあなたは救われたのだと言うのです。4節「私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。」と。パウロはこのコリントの教会の兄弟たちのことを覚えるたびに感謝をささげたと言うのです。この「感謝」というのは明確に記されています。コリントの人々に対する感謝ではなかったのです。例えば、彼らの生まれや育ち、身分や努力で何かを達成したとか、何かを獲得したとか、そういうことに対する感謝ではなかったのです。パウロの彼らに対する感謝というのは、この救われている兄弟たちに対してなされた神様のみわざに対するものでした。パウロの感謝の対象は神様なのです。なぜならパウロはこのクリスチャンたちは神様によって救われたことを知っていたからです。ですから彼は4節のところで「神に感謝しています」と現在形を使っています。パウロは彼らのことを覚えるたびに感謝し続けていました。感謝がやむことはなかった。神様、彼らを罪から救ってくださって感謝します、彼らを生まれ変わらせてくださって感謝します、彼らに永遠のいのちを与えてくださって感謝します、彼らをあの偶像から生ける神に立ち返らせてくださったことを感謝します、彼らを生まれ変わらせてくださり、希望を持つ者にしてくださって感謝します。パウロはこうしてその救いをもたらしてくださった神様に感謝を

ささげたのです。もちろんこれはコリントのクリスチャンだけに感謝したのではなかった。あらゆるクリスチャンたちのことを思うたびに、このような祝福を与えてくださった神様にパウロは感謝をささげたのです。

救いは神様からのものです。パウロはそのことをよく知っていました。救いというのは主イエス・キリストによって備えられたものです。というのはこの4節を見ると、パウロは「私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに」と言っています。ちゃんとパウロは教えてくれます。神様の恵みを彼は感謝するのです。救いを感謝するのですけれども、それは「キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた」と言っています。聖書は、あなたたちの努力によって救いを得たとは言っていない。この神の恵み、救いというのは、キリスト・イエスによって与えられたものだ。神様からのギフト、神からの贈り物であるということをパウロはここで明確に教えます。

① この救いは、キリスト・イエスによって備えられたもの

もう一つ考えるならば、神が救いを与えるのですけれども、神が救いを備えてくださったのです。そしてその救いを与えてくださるのです。イエス様がヨハネ10:18で「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。」と言っています。どうしてイエス様がこんなことをお話になったのか。そして実際にこの後イエス・キリストは十字架でご自分から進んでいのちを捨てられました。あの十字架に関してイエス様が言われるのは、あれは私が選んだことであり、私がみずから進んで自分のいのちをささげたのだと言っています。だから私たちはみことばを見る時にそこにイエス・キリストが何とか生きようと抵抗しておられる様子を見ることはないのです。自分から進んで十字架に架かろうとして行かれた。イエス様が言われたように、「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てる」のだと、私が自分から進んでこのいのちを犠牲とするのだと言われていました。

なぜイエス様が自分から進んで自分のいのちをお捨てになったのか——。幾つかの理由を私たちは覚えることができます。

(1) 主なる神は、「我々に救いが必要なこと」を知っておられたから

一つ目は主なる神は我々に、あなたに救いが必要なことを知っておられたからです。私たちの神は、あなたの必要をご存じです。あなたに救いが必要だということを知っておられたゆえに、主イエス・キリストは喜んでみずから自分のいのちを捨てられました。皆さんもよくご存じのようにヘブル9:27に「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」とあります。人間は必ず死ぬ、そして死んだ後必ず神様によってさばきを受けると教えられています。例外はありません。そして、どんな小さなことでもあなたをお造りになった神、そしてあなたにこのように生きよと言われている神、すべてにおいて正しくありなさいと言われている神様のその命令の一つでも逆らったらあなたの運命は決まっています。永遠のさばき、永遠の地獄です。例外なく私たちはすべて、永遠の地獄に向かっていました。みことばが私たちに教えてくれるのは、そのことを神が知っておられ、そしてあなたには救いが必要であることを知っておられたゆえにイエスは自分から十字架でいのちを捨ててくださった。だからイエス様が自分から進んで十字架に架かって行かれたという、その事実を我々が見る時に覚えなければいけないのは、主はあなたや私の一番必要なものを知っておられたのです。罪の赦しが必要だということを知っておられたのです。だからご自分から進んで十字架でいのちを捨てられたのです。

(2) 主なる神は「我々には救いを得る手立て、方法がないこと」を知っておられたから

二つ目に言えることは、主なる神は我々には救いを得る手立て、方法がないことを知っておられたのです。神様はあなたがどんなに頑張っても、どんなに心を入れかえても、それでもまだ神の基準には絶対に達することはないということを知っていたのです。つまり我々人間の努力をもって、救いを得ることは不可能です。絶対にあり得ない。百歩譲って、もしきょうから私たちが100%完璧な生活をしたとしても、これまでの生活は取り返しがつかないのです。もう既に我々は神の前に罪を犯して来ているのです。そして皆さんがなさったように、私たちがどんなに心を入れ替えようとしても、変わらない。悲しいことに罪を憎んで罪から離れようとしても、すぐに罪の心、罪の思いが出てきます。言わなくていいことを言ったり、考えなくていいことを考えたり。主なる神は、あなたに救いが必要なことを知っておられただけではいいのです。あなたは自分で救える手立てが全くない、その方法が全くない、救いに関してはどうすることもできない存在だということを知っておられた。だからイエス様は自分から進んでいのちを捨てたのです。

(3) 主なる神が、「我々のために救いを備える」ために

もう一つ、主なる神が我々に救いを備えるために、主はみずから進んで十字架で死んでくださった。我々にできないことを神様はしてくださったのです。神ご自身が救いを備えてくださった。だから、イエス様は自分から十字架に架かって行かれたのです。I ペテロ2:24では「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。」と、ペテロは非常に明確にイエス・キリストの十字架の説明をしてくれています。自分から十字架の上でイエス様が私たちの、あなたの罪をその身に負われた、イエスの十字架はあなたの身代わりであったと、あなたに代わってイエス様が死んでくださったことを言います。そしてこう続きます。「キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」と。つまりイエス・キリストがあなたに代わって十字架でいのちを捨ててくださったことにより、あなたのために完全な救いが備えられたのだと。ですから、あなたの救いが、罪の赦しが必要だということを知

知っておられる神が、あなたはどんなに努力をしても自分の努力で救いを得ることができない存在だということを知っている神が、あなたのために完全な救いを用意してくださった。ですから、神様の恵みということを知ってパウロは感謝するわけですが、同時にパウロはこの救いというのは神ご自身が備えてくださったものだと知っていました。

② この救いは、キリスト・イエスによって与えられたもの

同時にこの救いは、キリスト・イエスによって与えられたものであることを先ほどの告白をもって我々は知ることができます。もう一度4節を見ると、繰り返しますが、「私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに」、「あなた」が入っていません。この神の恵みは「キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた」のです。「与えられた」、受動態です。受け身が使われています。つまり救いを得るといふ神の恵みを得るのは、あなたの努力では絶対ないのだと言っています。すべては神様のなしてくださるみわざゆえなのです。神があなたに救いを与えてくださるのです。神があなたを罪から救い出してくださるのです。ちょうどヨハネ10:28の中で、イエス様は「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。」と言っています。この「与えます」といふのは、神ご自身が与えてくださるから、受動態ではなく能動態なのです。しかも現在形が使われています。求める者に神様は与え続けてくださるからです。この救いのチャンスというのは今でもまだ与えられているのです。もう救いのチャンスがなくなったのではないのです。今でも神様はこの永遠のいのちを与え続けてくださるのです。まだチャンスがあるのです。このヨハネ10:28は「彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」と続きます。このイエス・キリストの救いによって、その人は永遠に完全に救われ、その人は絶対に救いを失うことはないのだという保証がされています。ですから、パウロがまずクリスチャンたちに呼びかけたことは、あなたたちはどんなに素晴らしい祝福を神様からいただいたのかを忘れてはいけないということです。神があなたを救ってくださった。その救いをあなたが得るために、神が救いを備え、そして備えられた完全な救いをあなたに与えてくださった。この救いはあなたが一生懸命努力した結果ではない。神の一方的な恵みなのだ。だからパウロは神の恵みを感謝したのです。

私たちに与えられた罪の赦しというのは、大きな犠牲に基づいているということです。神ご自身が死ぬために来てくださり、そして死んでくださることにより、この救いを備えてくださり、そしてこの備えられた救いをあなたに与えてくださった。だから神を私たちはほめたたえるのです。

5. 神によって祝福された者 5節(救われただけでなく、彼らの成長を主に感謝している)

そして五番目の祝福は、クリスチャンというのは神によって祝福された者たちであると。5節「というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。」と、あなたたちは神によって祝福されていると言うのです。つまりパウロは、あなたたちに与えられた救いだけではなく、あなたたちの信仰が成長していること、そのこともパウロは感謝していると言っています。この5節のみことばの最初は「というのは、」と訳された接続詞で始まっています。これは前とつながっていることが明らかです。ですから救いを、神の恵みを感謝したパウロ、救われたことを感謝しているパウロ。5節を見て行きますと、救われた者たちが本当に救われていることを日々の生活をもって証していたのです。ですからこの神の恵みを彼は感謝しています。神の恵みというのは、救いに限定されるものではないのです。神の恵みは救いから始まって、信仰生活も含めてすべて私たちは神の恵みということばで表現できます。神の恵みによって救われて、神の恵みによって生きるのです。ですからパウロは神の恵みを感謝した時に、救いもそうだし、その後のクリスチャン生活、そこにおける彼らの成長に関しても神に感謝しています。なぜならそれも神のみわざだからです。

この5節のみことばを見ると、その後「あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです」と書いてあります。まず私たちが注目しておきたいのは、あらゆる点において「豊かにされた」という意味なのです。この動詞は「豊かな者」という意味もあるし、「富ます」とか、「富んだ者となる」、もっと別の言い方をすれば、辞書は「金持ちにする」と定義しています。ここで使われている「豊かな者」といふのは「金持ちになる」とか、「富んだ者になる」とかいう意味を持ったことばです。パウロがあえてこのことばを使ったのは、世の中の富でもって豊かにされたという話をしていないのです。イエス様を信じた皆さんが物質的に恵まれてお金持ちになったということをしていないことは明らかです。パウロが言っていることは、神様の与えてくださった祝福によって豊かな者にされている。だからクリスチャンというのは、神様の祝福をいただき、神の宝をいっぱいいただいたことによって本当に豊かな者、富んだ者、金持ちになったというのがパウロがここで教えていることなのです。神の宝によって、この上もないほどの金持ちにあなたも私もされたのだと。私たちがわかっているのは、この世の富、この世の物質をどれだけ手に入れても、それは私たちに本当の祝福をもたらしません。そんな話をしていない、神の祝福の話なのです。我々クリスチャンというのは神様から物すごい祝福をいただいている者たちなのです。実はそのことをこの5節でパウロは教えているのです。

① 「あらゆる点」：我々は、必要なものすべてが与えられた

まず見てほしいのは、日本語の聖書ではこのような順番で並んでいます。「ことばといい、知識といい、すべてにおいて、」と。ところが原語を見てみると、まず最初にこのあらゆる点というか、「すべて」ということばが出て来るの

です。まず最初にパウロが言いたいのは、我々クリスチャンというのは、我々の必要のすべてが与えられた者たちだと。また与えられる者たちであると。だからあらゆる点、「すべて」なのです。

(1) この地上における日々の生活において:最高の羊飼いを得た

例えば私たちのこの地上の生活においてもこのことが言えます。私たちはこの地上の生活においてすべての必要が与えられます。なぜかという、みことばを見た時に、私たちには最高の羊飼いが与えられたのです。「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。」(詩篇23:1)、なぜかと言うと、この羊飼いが私の必要のすべてを満たしてくれるからです。ダビデはそうにして神をたたえました。

a. 正しい道を示し、導いてくれる羊飼い

この羊飼いはどんなことをするかというと、あなたに正しい道を示して、正しい道へと導いてくれます。そんな働きをこの羊飼いはします。どういうふうに進んでいいかわからない時、神様は聖書を通してちゃんと教えてくださる。聖霊を通して、兄弟姉妹たちを通して、どのように進んで行ったらいいか、正しい道を私たちに示してください。

b. 危険や悪から守ってくれる羊飼い

またこの羊飼いはあなたを危険とか悪から守ってくださる。ちょうどパウロが描いたように羊飼いが杖を持って、むちを持って羊を守るために野獣と格闘するように、私たちの最高の羊飼いである神はあなたを危険や悪から守ってくださる。

c. あらゆる必要を満たし続けてくれる羊飼い

またあなたが抱えているあらゆる必要を満たし続けてくださいます。

d. 常にともにいてくださる羊飼い

またあなたを片時も離れることなく常にともにいてくださる。羊飼いは時として羊とともに眠ることがありました。羊飼いと羊の間に特別な愛がありました。だから羊飼いの声を羊は聞き分けることができた。羊飼いはその羊のことを知っていた。それはまさに神様と私たちの特別な関係を教えてくれています。この方は片時もあなたから離れない。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」(ヘブル13:5)と言われた。いつもともにいてくださる。

e. 弱さを知っておられ、必要な助けを与える羊飼い

この羊飼いはあなたの弱さを知っておられ、必要な助けを与え続けてくださる方です。だれよりもあなたの弱さを知っています。

f. 罪深さを知り赦しを与え続ける羊飼い

この羊飼いはあなたの罪深さを知っておられ、赦しを与え続けてくださいます。あなたがどれほど弱く、罪深い存在であるかを神様はちゃんと知っておられる。その上で、あなたに助けを与え、赦しを与え続けてくださる方です。感謝だと思いませんか？ 私たちだったら限界があります。もちろんその限界というのは人によって違いますけれども、我々はもうこれまでという時が来ます。もういいかげんにしなさいという時が来ます。私たちの羊飼いは赦し続けてくださると。これが私たちに与えられた最高の羊飼いです。

g. 必要な励ましを与える羊飼い

また、あなたの臆病さを知っておられ、必要な励ましを与えてくれます。どれほど臆病な存在かを知っているのです。羊という動物は非常に臆病な存在で、いつも怖がるのです。みことばを聞いてそのように生きればよいと思っても、なかなかその一歩が踏み出せない臆病な存在です。いろいろなことを考えてしまって恐れが先立ってしまって、やりたいと思うことがなかなかできない。神様はちゃんとわかっておられるのです。そして、あなたに必要な励ましを与え続けてくださるのです。

h. 必要な知恵を与える羊飼い

あなたの愚かさを知っておられ、必要な知恵を与え続けてくれます。一生懸命神様に認めてもらおうと努力なさるかもしれない。でも神様は本当のあなたを見ておられる。だからと言って私たちが何をしてもいいということではありません。神の助けをいただきながら、私たちは神に喜ばれることをして行こうとするのです。しかし、私たちは気づくではないですか、なんて自分は愚かなんだろうと。だから私たちは神様に知恵を求め続けて行くのです。ヤコブ1章が教えるように。神の知恵が必要なのです。そして私たちに神様は知恵を与えてくださるのです。だから皆さん、信仰が成長することによって知恵ある人たちというのは神様のみことばを日々の生活に適應することができる人たちなのです。神様に関するその知識を、日々の生活に適應するから知恵があると言えるのです。この状況でどのような選択をすることが神の前に喜ばれることであり、正しいことなのか。それを見極めて、それを実践することができる。だからその人が知恵ある人だと言うことができるのです。どれだけのことを知っていようと、それが実生活に生きていなければ知恵がないのです。愚かな人というのは何をしてもいいかわからないのです。知恵がある人というのは、何をしてもいいのか、何をすべきなのか、そのことをわかっているのです。でもこの神は感謝なこと私たちに愚かさを知ってくださっていて、私たちが求めるならば、私たちに知恵を与えてくださると。

i. 慰めと立ち直る力を与える羊飼い

またこの羊飼いは私たちの失敗を知っておられ、慰めと立ち直る力を与え続けてくださいます。私たちの日々の失敗を知っておられ、そしてその弱った私たちに慰めを下さり、私たちに立ち直る力を与えてくれるのです。失敗をしたけれども、また神様に信頼して歩んで行こうと。それであのペテロは主に大いに用いられました。大きな罪を犯してもう自分など神様が用いられることはないと思っていた時に、ペテロ、「わたしを愛しますか。」と言われた。神様は何度でもそのようなチャンスを与えてくださるのです。あなたの失敗を知っているだけではない。そのあなたに慰めと立ち直る力というものを与えてくださる。

ですから、こうして私たちに与えられた羊飼い。あなたに与えられた羊飼いがどんなお方かということを感じるだけで、私たちはこの地上にあって感謝をしながら、歩み続けることができます。こんな羊飼いがともにいてくださるなら、私たちはこれ以上何を求めます？だってこの羊飼いはあなたのすべての必要を知って、その必要を与えてくださるのでしょうか？まだ何が欠けていると言えるのでしょうか。確かに人間の羊飼いは表面的な部分しか見えないかもしれない。でも神は私たちの内側までご存じです。そしてあなたのすべての必要を満たすとされた。これ以上すばらしい羊飼いは存在しません。

ということは、こんな羊飼いによって私たちは導かれている以上「乏しいことはありません」、なぜなら神がすべての必要を満たしてくださるから、私は満足を持って満ち足りた日々を過ごすことができます。皆さん少し考えてみてください。今我々が見て来たように、私たちはこんな羊飼いによって導かれる羊となったわけです。私たちはこんな羊飼いを私たちの羊飼いとして得たわけです。この方があなたのすべての必要を知った上でその必要を与えてくださる。この地上での生活の話です。だとするならば、私たちは日々の生活において満ち足りた歩みをするのが可能になったのではないですか？あなたが病の床にいても神はそこにいてくださるのです。あなたが抱えておられるその病の苦しみも神様は知っているのです。神が望んでいるのは、その中にあって神を見上げて神の前に正しいことを選択することです。金銭的に非常に苦しい状況にあっても神様はちゃんとご存じです。神は必要を与えてくださる。大切なことはその中にあって、我々がしっかり神を見上げることです。自分自身の失敗に対して、もう自分は大めだと希望を失っているならば、もう一回主を見上げることです。約束を覚えることです。主は赦しを与え、もう一度新たなスタートを切ることができる。そして私たちは歩んで行くことができます。今皆さんにチャレンジしていることは、こういう約束を覚える時に私たちクリスチャンというのは間違いなく、この主を知らない人々とは全く違う生き方をする、またその生き方ができる者たちだと思いませんか？人々が絶望の中にも、私たちはその中にあって希望を持てる。なぜかという、私の羊飼いが私の必要を満たし続けてくれるからです。私の羊飼いがしっかりと私たちの手を握ってくださって、心配なくていいと言ってくださるからです。こうして私たちは生きられる者になったのです。だから我々はクリスチャンなのです。こんな祝福をいただいたのがクリスチャンなのです。あなたがクリスチャンと言うならこの約束はあなたのものです。この約束をあなたはいただいているのです。最高の羊飼いをいただき、この羊飼いによってあなたの日々の生活が導かれているのです。地上にいる間、特別な祝福をもってあなたはこの地上を歩み続けて行くことができます。

皆さん、そのことを覚えて感謝していますか？神様、救われたことを感謝します、あなたが私を守り導いてくださり、この日々の生活を、きょうという一日をあなたは助けて、私を守り導き続けてくださること、そのことを心から感謝します。確かに私たちの口からいろいろな不満や神様が耳を覆いたくなるようなことばが出てきたりします。いつも私たちは周りの人々と自分を比較してみて、またもっと悲しいことは私たちの中には自分の中に描いた理想というものがある、その理想と現実が違えば私たちはすぐに神様の前に不満を言うのです。しかし、パウロが私たちに教えてくれることは何かというと、我々クリスチャンは神様からこのような祝福をいただいた者たちなのです。世のいかなるものをもってしても得ることのできない祝福です。こんな最高の羊飼いが私には与えられているのです。あなたにも与えられたのです。その方があなたを導き続けてくださると。感謝だと思いませんか？アメンと言えませんか？主よ、そのとおりです、感謝です。ここからスタートなのです。神様、感謝しますと言えませんか？神様、ありがとうございますと言えませんか？こんな祝福を私に下さった。残念ながらそのことを知らなかったのではないのです。そのことを考えなかった、そのことを忘れてしまっていた、違います？でもだれよりもあなたのことを知っている羊飼いがあなたに与えられ、その方はどんなこともおできになり、そしてあなたのすべての必要を満たして下さり、そしてあなたの弱さもあなたの愚かさもすべてをわかってく下さり、私があなたを導くと言われたのです。だとするならば、この地上の生活というのはイエス様を知る前とイエス様を知った後では大きく変わるはずです。我々はクリスチャンとしてこの地上を、このすばらしい主によって導かれていることを感謝しながら生きることができませんか？信仰者の皆さん、すごい祝福をもらったのがクリスチャンです。確かに天国が与えられました、罪の赦しが与えられました。すばらしいことです。感謝です。しかし、それで祝福が終わったのではない。地上にあってこんな祝福をもって私たちはきょうを生きることができるのです。感謝をもって生きることができるのです。なぜなら、私たちの大祭司がこんなに偉大な方だからです。

私たちが考えなければいけないのは、そのことを覚えてそのことを感謝しているかどうかです。パウロがアピールするのは、すべてにおいてあなたは豊かな者とされたのだということを思い出ささいと言うのです。。あらゆる点において神様はすばらしい祝福をあなたに与えてくださったと。だからパウロは、「私は、どんな境遇にあっ

でも満ち足りることを学びました。」「あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」と、ピリピ4:11-12で教えています。パウロはどんな境遇でも感謝することができた。そのことに関しては次回学ばなければいけません、これだけは言えます。パウロがあらゆる境遇において満足を持って、あらゆる境遇にあっても喜びを持って感謝を持って生きることができたのです。あらゆる境遇にあってもパウロはあなたが私の大祭司であることを、あなたが私の羊飼いであることを、あなたが私の神であることを、主よ、感謝しますと。そしてその彼が歩んだのと同じ歩みをあなたも私も歩むことができます。なぜかという、パウロがあらゆる境遇にあっても満ち足りています、どんな境遇にあってもそれに対処する秘訣を心得ています。どんな時でも私は喜びを持って、感謝を持って生きることができます、そう言いました。そしてそういう生き方があなたにも可能だ、その理由は、あなたがクリスチャンだからです。クリスチャンだからできるのです。救われた者だからできるのです。皆さん、きょうはどうぞ主に感謝をささげながらお帰りください。大きな祝福を主はあなたに与えてくださった。少なくとも私たちの主は私たちからもっともっと感謝を受けるにふさわしいお方だと思いませんか？どうぞ主の恵みを覚えて、偉大な主を覚えて、この方にふさわしい感謝をささげながらこの一週間歩んでください。

《考えましょう》

1. あなたに救いを与えるために、キリストは何をしてくださいましたか？説明してください。
2. 動物のいけにえによっては、完全な罪の許しを得ないのはどうしてですか？
3. 「ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあっても豊かな者とされた」(5節)とはどういう意味かを説明してください。
4. 常に満ち足りた者として生きるためには、どうすればよいのかを教えてください。